NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会

Daichikyo News

大地協ニュース

大地協ニュース復刊 第 25 号

発行元：NPO 法人 大阪市地域福祉施設協議会
企画委員会《 広報宣伝部 》
発行日：2024 年 12 月 第 25 号

担当窓口：望之門保育園 佐伯（さえき） 剛（たけし）
TEL 6651－7741
Fax 6652－8841

大地協の最新☆情報は右記 ➔
QR コードをご覧ください。

大地協ニュースへのご感想・記事テーマリクエストなど
上記担当窓口まで皆様のお声を頂けましたら幸いです。

経験してきた『町を歩こう』の魅力から全国研修会につなげて

愛染園に入職して、34 年。入職当時の上司、菅良介先生は、ことあるたびに、「駅から施設に来るまで何人の人とあいさつをしましたか？」と口にされていました。実際、菅先生は、保護者、卒園児、地元の商店の方々、行政、学校関係者の方々とあいさつを交わされていました。また、挨拶だけで終わらず、世間話や昔話から、依頼、相談と、話の内容も多岐にわたります。人とのコミュニケーションの大事さと、地域で繋がりを持つ大事さは、その時はあまりピンときませんでしたが、仕事を重ねるうちに、ひしひしと感じ、「駅から施設に来るまで何人の人とあいさつをしましたか？」というフレーズは、今となっては、仕事を進めるうえでとても重要なウエートを占めていると実感してきました。

私は現在、西成市民館の相談員をしていますが、相談者の話を聞いているだけでは、理解できることはほんの一部です。なぜそうなったのかという背景を理解しないことには、問題を明らかにすることはできませんし、解決への提案を示すことはできません。ご本人の話だけでは、一見なかなか理解できないこともありますが、その人の背景、経験、地域事情などを考慮すれば、理解できる部分も増えてきて、支援への第一歩となります。地域事情には、住環境(衛生　間取り　共同トイレ　共同お風呂　エレベーターの有無　支援管理の有無など)、収入(年金　生活保護受給)、買い物環境(商店の種類や販売内容)、余暇の環境(飲み屋さん　ヤミ金　公営ギャンブル)など様々です。地域背景を理解するには、目の前だけの知識や、パソコンの中だけでは情報は足りません。問題は町にあり、解決への糸口も街にあります。歩くだけではニーズは見えてきません。そこにいる方々と話し込んで、初めて糸口が見えてきます。このようにヒントは町の中にありますが、誰の立場で町を見るかによって、受け取り方もまちまちです。

歩くことで、地域の情報を得るとともに、挨拶や世間話を通じて、顔見知りが増え、自身や施設の宣伝にもなっています。最近でも、地域の方が、困ったときに、「あの人のところに行ったら何とかなる」と言って、時々相談に来られます。来るのを待つだけではなく、また、歩くことが目的ではなく、それを一つの手段として活用しています。

『町を歩こう』というテーマは、２０年以上も前の研修会のメインテーマと同じです。町を歩くということは同じでも、街は変わり、人は変わっています。このテーマは未来に、ずっと続くものでもありますし、何度も、見返し実践するものと思います。今回のテーマ、新鮮にとらえる方、懐かしく思う方、立場によって違うかと思いますが、ともに町を歩いて、いろいろな発見などに繋がればと思っています。

≪ 2025 年 第 29 回全国地域福祉施設研修会 ≫
第 1 分科会 『町を歩こう～地域福祉施設の職員が町を歩く意味～ 』スピーカー兼案内人

社会福祉法人 石井記念愛染園　西成市民館　　澤村 稔

全国地域福祉施設研修会　第23回 児童部会

「子どもの権利と居場所について」－地域にたくさんの居場所をつくろう－

児童部会を終えて

今回、児童部会の実行委員長に選ばれ何が何だか分からない状態からスタートをしました。今までの児童部会には参加をしており、二年前から東京、愛知、大阪の各地域の中学生以上の子たちが参加している状況も知っていましたが、今回の児童部会を過去二回の児童部会からどのように繋げていくのか、大阪のスマイル会の子たちがどのような形で参加をしていくのか、そういった部分を知るところから準備が始まりました。

私自身、今年度から中学生以上会議（スマイル会）に参加するようになり、一緒に活動をしていると、会議で中学生以上の子たちが自分の意見を出し話し合いをする姿や、地域のお祭りなどに出店して活動する姿、夏のキャンプに向けてチームに分かれ話し合いを行いキャンプ当日に話し合った内容を発表する姿など様々な姿を見ることができました。

それらの姿を見ていると、去年の児童部会でスマイル会の活動報告を行っていた姿はこの場で作り上げられてきたものなんだと思いました。

「人が話している時は聞く」「聞いてもらうからこそ自分の意見を自分の言葉で伝える」普段からこの大切なことを実行出来ているスマイル会の子たちには感動しました。そんなメンバーと共に、今年の児童部会ではワールドカフェでの意見交換の場を作り、その場を回すファシリテーターにスマイル会の子が入るということが決定して準備が進んでいきました。

初めは不安そうな部分もありましたが、当日を迎えるまでに会議を重ね「アイスブレイクにはどんなお題を用意するのか」「どういったお題なら参加した人たちが話しやすく意見が出しやすいのか」等もみんなで考え、夏のキャンプには実際にワールドカフェを行いながらファシリテーターの練習も行いました。

児童部会に参加した東京５名、名古屋５名、大阪43名の子どもたちと迎えた当日、第一部の基調講演ではNPO法人FAIR　ROAD副理事長の栗本さんの「子どもの権利と居場所について」を聞き、海外でのソーラーランタンや絵本を届ける活動から繋がっていった人との出会いや、国内の中学校・高校内で居場所づくりを行っている現在の活動を知ることができました。

第二部のワールドカフェではスマイル会の子たちが中心となり、「居場所」について参加者全員で様々な意見交換を行いました。

その後、その場で出た意見を用いながら「子どもの権利条約」と結び付けていき、迷い悩みながらも「子どもの権利条約」について学びを深めることができたのではないかと思います。

社会福祉法人大和福祉会
やまと保育園子どもの家　赤嶺 優真

第29回 全国地域福祉施設研修会ご案内

【日　程】　2025年2月14日（金）13:00-19:30（受付12:00-）
2月15日（土）　9:00-12:00

【会　場】　大阪キリスト教短期大学

【テーマ】　**町を歩こう　～福祉の心を文化に～**

第29回　全国地域福祉施設研修会（大阪大会）のご案内

【参加費】

◎一般の方　　２日参加　８，０００円　　１日参加　４，０００円

◎学生の方　　２日参加・１日参加ともに５００円（資料代）

◎日本地域福祉施設協議会　加盟施設・個人会員の方　　２日参加　７，０００円　　１日参加　３，５００円

◎大阪市地域福祉施設協議会　加盟施設・個人会員の方　２日参加　７，０００円　　１日参加　３，５００円

子どもたちに大切にしてもらいたいこと

保育園園庭で地域の青果店さんとのお買い物体験

当園は、３つの園があり、０歳児～５歳児まで約１５０人が在籍しています。安心安全な食事作りを基本に、子どもたちと食材との出会いが良いものとなるような食事作りに努めています。例えば、新鮮な食材を届けてもらえる事からできるだけ地域密着の専門店で取引を行うように心掛け、地域との関わりを大切にしています。今回長年、園の食事を支えて頂いている取引先の方々と子どもたちとの交流を目的とした「買い物体験」を行ったので、ご紹介したいと思います。

毎年 11 月に収穫感謝祭があり、子どもたちと一緒に秋の実りと恵みに感謝をしています。その日のおやつは決まって、園庭で焼き芋を作ります。この時に使うさつま芋を子どもたちに買ってきてもらおうと考えました。子どもたちは、いつも園で食べているごはんやおやつに使う食材をいつ、誰が届けてくれるのか知る機会が少ないです。この買い物体験をするにあたり、「食材を届けてくれる青果店さんがいて、ずっと支えてくれるから、ごはんが食べられるんだよ。」という事を子どもたちに知ってもらいたいと思い、青果店さんにお願いし、園庭に特設のさつま芋店を開いて頂きました。

体験当日の子どもたちはドキドキ、ワクワクとした様子で、少し緊張が勝っているようでしたが、青果店さんの優しい笑顔と声掛けのおかげで徐々に子どもたちの緊張もほぐれ、自分で選んで買ったお芋を満足そうに、そして大切に持つ姿がとても印象的でした。その後は、青果店さんへの質問コーナーを設け、野菜の事を聞こうと思っていましたが、子どもたちは、野菜の事よりも青果店さんの事の方が気になるようで、「やさいやさんのすきなやさいは？」など、どんな人なのか、何が好きなのか、とたくさんの質問が飛び交っていました。翌日から青果店さんが配達にきてくれる時間に出会った子どもたちが「やさいやさーん!!」と声を掛ける姿が多く見られました。たった数時間の交流でしたが子どもたちと青果店さんとの繋がりが広がっていく事を強く感じました。

食事は私たちの生活の中では欠かせないものですが、その食事を口に運ぶまでには、たくさんの人の関わりや想いがあります。食材を育てる人、運ぶ人、料理を作る人、たくさんの人の手を介して誰かの元へと届けられます。そして何かの命を頂いているという事。今は、何でもすぐに手に入ってしまうので、これらの大切さや有難さが希薄になっているように感じます。「いつでも感謝の気持ちを持つ」というのは難しいですが、食べ物に関わる人との交流を行う事によって、ただ提供される食事ではなく、「顔の見える人が運んでくれた食材であり、知っている人が作ってくれた食べ物」になると思います。それによって、自然と子どもたちの食べ物を大切にしようという気持ちが強くなっていくのではないかと思います。
そんな風になってもらえたらいいなと子どもたちの食事に携わる１人として願っています。

社会福祉法人　阿望仔
望之門保育園　調理師　滝澤 曜

わっしょい！金塚 ～地域と共に大地協～
金塚フェスティバルを開催して

今年で 25 回目を数える「びわ湖セツルの家」を中心とした自然体験施設の応援バザー。今年度は開催地域である金塚のお祭りとして金塚連合振興町会に協賛いただき、地域と大地協のイベントとして企画させていただきました。開催当日の 11 月 30 日(土)は天気にも恵まれ、大地協バザー改め金塚フェスティバルに多くの方々が来場してくださいました。大地協の施設が協力して開催してきた大地協バザーですが、地域とのつながりによって可能性の広がりを実感できる催しとなりました。ご協力いただきました金塚連合振興町会やブースを担当してくださった施設、スタッフやボランティアの方々 皆さまのおかげさまをもちまして盛況のうちに無事終えることができました。本当にありがとうございました。

社会福祉法人 清栄会
阿さひ保育園　青地　祐史

金塚フェスティバル
開催しました

たくさんのブースが出ました

DAI.CHIKYO
Instagram

すべての子どもたちが かけがえのない存在

幼保連携型認定こども園ひがみや児童センターと隣接して、児童発達支援センターである「こども発達サポートステーションそれいゆ」があります。

両施設は、都島東保育園と知的障がい児通所施設の都島こども園がその前身で、昭和51年から大阪市の委託を受け、社会福祉法人都島友の会が運営してまいりました。平成28年に複合施設である両施設を買取り、建て替え工事を実施、令和元年に新園舎となりました。

もともと隣接していたので、職員や園児同士の交流は長年やってきましたが、その利点を生かそうと、より連携できるよう建物の構造にも工夫を凝らしています。

都島友の会の幼保連携型認定こども園、保育園（10園）では、療育にあたり「すべてのこどもたちがかけがえのない存在である」を基本方針として統合保育を行っていますが、法人内に、療育にスキルのある職員や心理士等の専門職がいる「こども発達サポートステーションそれいゆ」があることは、各園にとってすぐに相談できる心強い存在です。

療育で大切なことは、保護者の理解です。ひがみや児童センターでは、「それいゆ」と相談・連携しながら、保護者と、子どもの困りごとの理解やエピソードトークを行って共通理解を図っています。そうすることで、職員は、子どもに対しより良い対応ができるとともに、保護者もまた子どもに対する方向性を見いだすことができ、子どもの成長を感じることができるものと思います。

しかし時には、

・対象児の困りごとや導き方が見つけられない。

・保護者に理解が得られない。

・やっと、検査を受けてもらったが、結果が悪いからと診断書を見せていただけないなどの困難もありますが、日々、悩みながら保護者との話を進めています。

それでも、やり続けることで、

・子どもの導き方が見えてきた！

・自閉症の子が降園するときに「しょうちゃんに『ばいばい！』言ってくるわ～。」と、友達との関わりが持てたり、

・担任の名前を言えなかった子が、家で園のお知らせを「〇〇先生が言ってたぁ。」と話すことができたりすると、子どもたちの成長が垣間見られ私たちの小さな喜びと自信にも繋がります。

保護者の理解を得るための鍵は、療育と子どもの特性について正しい情報、知識、認識を伝えることだと考えています。

先日、近隣の小学校の教頭先生より「ひがみや児童センターから進学される療育を必要とされる子どもの保護者さんは、子どものことをよく理解され熱心ですね。」と言っていただきました。

また、療育を必要とされる保護者の方からは、「療育支援は、一般的でなく情報も少ない。けれど、同じ法人内に療育施設があると親にとってのハードルが低く安心して話を聞くことができました。」と言っていただいています。これらの言葉は私たちにとって何よりのお褒めの言葉です。

これからも、法人の強みを生かし協力し合い、保護者の皆様と子どもの成長をともに喜び合えることを励みに寄り添っていきたいと思っています。

社会福祉法人都島友の会
幼保連携型認定こども園
ひがみや児童センター
園長　瓜坂 容子